

なぜ、風邪ひきが減ったんだろう？

もぐさ成分とからだ防衛軍の関係

お灸を続けた人は風邪ひきが少なくなりました。どうしてでしょうか。

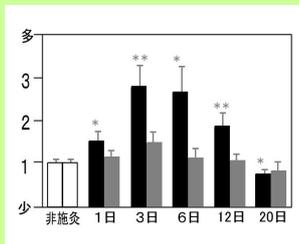
もぐさの有効成分は精油成分とタール成分に分けられます。

タール成分の一つ、カフェタンニンを除去したもぐさ(CT(-)艾)と、通常もぐさ(CT(+))艾)を使って、ラットの足三里相当部位にお灸をし、リンパ節を取り出して、もぐさの有効成分がからだ防衛軍(白血球)に与える影響を調べました。

施灸による所属リンパ節サイトカイン mRNA 発現の変化

東家一雄

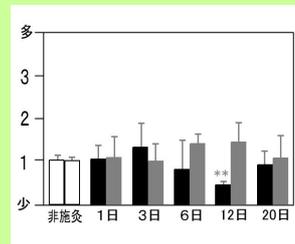
CT(+)



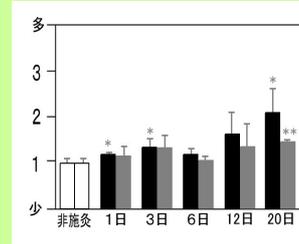
IL-12mRNA の発現を示す

IL-12 は NK 細胞やヘルパー T 細胞の活性化および IFN- γ の生成を促すように作用する。

CT(-)



CT(+)

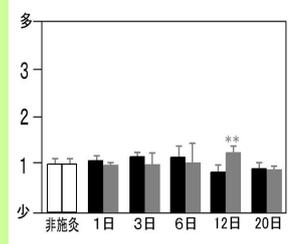


IFN- γ mRNA の増加傾向を示す

IFN- γ はマクロファージの活性化や細胞傷害活性の増強に作用する。

細胞傷害活性とは自分ではないものを攻撃する力のこと。

CT(-)



白 非施灸
黒 施灸群所属リンパ節
灰色 施灸群遠隔リンパ節

《実験の方法》

〔使ったツボ〕 ラット前脛骨筋上部 1/3 の皮膚上 (ヒト足三里相当部位)

〔やり方〕 動物の両側下肢前面を剃毛した後、半米粒大透熱灸 3 壮を連日施灸。

施灸開始後、1, 3, 6, 12, 20 日目の個体より鼠径リンパ節および上腕リンパ節を摘出。

摘出したリンパ節から mRNA の増幅反応を行い、得られた PCR 産生物を電気泳動にて展開、数値化した。

〔実験結果〕 お灸の効果はもぐさの成分に左右されることがわかった。

全日本鍼灸学会雑誌 . 53 : 601-613 (2003) より転載

免疫システムとからだ防衛軍

からだ防衛軍とは白血球のことです。白血球の働きのことを「免疫」といいます。免疫を担当する白血球がよく働くためには、サイトカインという物質が必要です。お灸を続けているとサイトカインの生成または分泌が活発になります。この実験ではお灸を続けると、マクロファージや NK 細胞など、第一防衛軍がよく働くようになったことと、第二防衛軍への連絡係ヘルパー T 細胞の働きが良くなっていることがわかりました。

お灸を続けると、初期段階の免疫応答の働きが良くなるから、風邪をひきにくいからだづくりに役立つんだね。

